

215 日本アルプス（2023 年 11 月 28 日）

フランスからオーストリアやスロベニアまで東西に走るアルプス山脈には、世界的な名山が並んでいます。アルプスの山々は、数多くの登山家を魅了し、世界中から観光客が訪れています。中でも有名なのが、フランスとイタリアの国境にそびえ立つヨーロッパ最高峰のモンブラン（4805m）です。夏でも雪に覆われ、切り立った岩が連なるモンブラン山系の姿は、簡単には人間を近づけない自然の厳しさを感じさせます。実は、日本にもアルプス山脈があることをご存知でしょうか？



日本の狭い国土には山が多く、地図に掲載されている山だけでも、大小様々な 1 万 6000 以上の山があると言われています。本州の中央部には、3000 メートル級の山々が連なっています。飛騨山脈は北アルプス、木曽山脈は中央アルプス、赤石山脈は南アルプスとも呼ばれ、これらの山脈を合わせて日本アルプスと言います。日本の最高峰である富士山（3776m）は日本アルプスに含まれませんが、日本で標高の高い山トップ 100 のうち、日本アルプスが 92 山を占めており、「日本の屋根」とも言われます。（写真右は、長野県松本市の上高地から撮影した北アルプスの焼岳（2455m））



「日本アルプス」という言葉を初めて使ったのは、イギリス人のウィリアム・ゴーランド（1842-1922 だと言われています。ゴーランドは、明治政府のお雇い外国人として 1872 年に来日し、冶金技術を教えました。様々な才能を発揮したゴーランドは、日本の古墳研究の先駆者としても成果を残しました。また、登山家でもあったゴーランドは、ピッケルを使った西洋式の近代登山を最初に日本に紹介した人物でもあります。

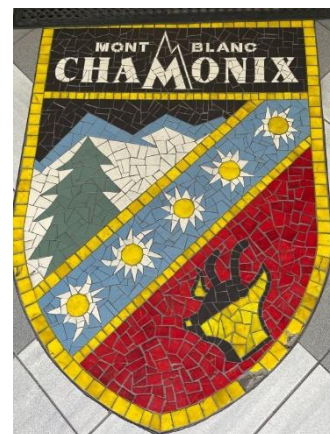
「日本アルプス」という言葉は、当時ヨーロッパで出版された本のおかげで知られるようになりました。イギリスの外交官で日本に駐在したアーネスト・サトウが編集して 1881 年に出版された「A handbook for travellers in central & northern Japan」（旅行者のための中日本と北日本のガイドブック）の中で、ゴ

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ーランドは、万年雪に覆われ、標高が高くて険しい飛騨山脈は、日本で最も重要な山脈であることから、日本アルプスと呼んで差し支えないであろうと述べました。その後、イギリス人宣教師で登山家であったウォルター・ウェストン（1861-1940）は、日本各地の山々に登り、1896年にイギリスで「Mountaineering and exploration in the Japanese Alps」（日本アルプスの登山と探検）を出版しました。この中で、ウェストンは、長野県の松本方面から飛騨山脈を見たときの感想を次のように述べ、その雄大さと美しさを称賛しました。「一万フィートかそれ以上（注：3000メートル級）の雪に覆われた稜線と気高い峰々が、日暮れ時のオパールのように輝く光の中で、濃く鋭い輪郭を描いて立っていた。日本のマッターホルン槍ヶ岳、「槍の峰」、ペンニネアルプス山脈の女王ヴァイスホルンを彷彿とさせる優美な三角形を持つ常念岳、さらにその南には巨大な二つの頂をもつ乗鞍岳、「鞍の山」があり、それぞれ特徴のある形で目を引いた。」こうしてウェストンによって、日本アルプスの名が広く知られるようになりました。

日本では、山脈の正式名称よりも、北アルプスや南アルプスといった通称の方がよく使われています。2003（平成 15）年に、山梨県の6つの町や村が合併して南アルプス市が誕生しました。公募で市の名前を募り、南アルプスという名前が選ばれました。日本の市町村名の中で外国の地名を使っているのは、南アルプス市だけだと言われています。新しい市が、南アルプスの豊かな自然の中にあることがわかり、観光地として良いイメージを与えるというのが、市の名前に選ばれた理由です。

美しく雄大な山々が連なり、豊かな自然環境を擁する日本アルプスは、日本人の誇りです。



（シャモニーの町から見たモンブラン山系）